

「訪問薬剤師に 期待される役割と実際」

■ 講演 「松山市での事例を通じて」



なごみ薬局 薬剤師 谷 佳江

1980年北海道大学薬学部卒業。
医療法人徳洲会日本の医療をよくする会に入職。1982年より北海道大学教育学部で障がい福祉と教育について学ぶ。
1984年医療法人慈強会松山リハビリテーション病院薬剤部に入職。1988年より薬学部長として病棟活動、在宅医療、地域連携、四国老人福祉学会の運営等の活動を行った。その後保険薬局で主に在宅医療に、中島病院で離島医療に携わる。
2015年よりなごみ薬局を開局。管理薬剤師として働いている。
松山薬剤会理事。愛媛県薬剤師会委員として、在宅医療の普及、学生実習支援、災害時ボランティア等の活動を行っている。

■ 講演 「徳島の在宅の現状」



株式会社グローバル・アシスト
地域医療連携室 室長 小林 真也

2011年 徳島大学薬学部薬学科 入学
2016年 ノースカロライナ大学薬学部
留学／臨床研修
2017年 徳島大学薬学部薬学科 卒業
2017年 IQVIA入社
(IES事業本部:メディカル総合職)
2019年 (株)グローバル・アシスト入社
北常三島調剤薬局配属
地域医療連携室室長 兼任

2019年9月28日 土

時間：15時～17時 講演会
17時～18時 意見交換会

場所：なじみギャラリー 徳島市吉野本町6-42 コレクティブハウスなじみ1F

定員：30名 どなたでも参加自由です

高齢者人口の増加に対応すべく、医療業界には様々な変革が求められています。薬局として例外ではなく、厚生労働省は今後充実強化すべき機能として高度薬学機能管理と健康サポート薬局を掲げています。そこで薬局にはがん治療などの、より専門性の高い治療に関わるか、あるいは在宅を含む地域医療に対応できることが求められています。市中の調剤薬局では主に地域医療にどのように貢献してゆけるかが鍵となります。しかし、在宅診療に関わっている薬局はまだ少ないのが現状です。今後、在宅に展開を検討していても、「在宅チームの二員として薬剤師は何をしたらよいのか」「24時間対応や麻薬取り扱いをどのようにしているのか」等の疑問・不安を抱えているように思います。そこで第11回なじみ講演会では、在宅医療の経験豊富な薬剤師の先生をお招きして、地域医療の実際のお話しを伺うことにしました。

松山市のなごみ薬局谷薬剤師は、長年地域医療に情熱をもって取り組んでおられます。私が以前勤務していた「たんぼクリニック」でも大変お世話になった方で、多くの困難事例に対応いただきました。また、徳島での在宅医療の取り組みを、グローバルアシストの小林室長よりお話しして頂き、その後意見交換を行う予定です。薬剤師の方はもとより、在宅診療に関わる方にとって有意義な勉強会になると思います。ふるってご参加ください。

■ 進行役

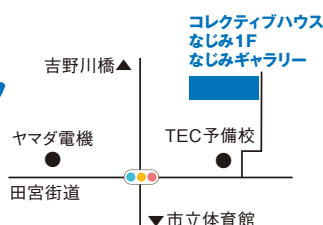
おおた在宅クリニック 院長
太田 敦
愛知県出身。大学卒業後一般企業勤務。徳島大学医学部卒業。徳島健生病院初期研修。京都家庭医療学センター家庭医後期研修。岡山家庭医療センター勤務。愛媛県松山市たんぼクリニック勤務。2018年10月より、おおた在宅クリニックを徳島市吉野本町に開業、現在に到る。



*駐車場スペースに限りがございますので、できるだけお乗り合わせの上お越しください。

企画／ おおた在宅クリニック
Ota Home Care Clinic

お問い合わせ Tel 088-656-3001
Fax 088-603-8227
www.ota-hc-clinic.com





FAX参加申込書

FAX:088-603-8227



なじみ第11回 講演会 参加申込書

ご出席いただける場合は、まことにお手数ですが、
下欄にご記入いただき、FAXにてご返信いただきますよう、お願い申し上げます。

氏名			
所属		職種	
メールアドレス			

氏名			
所属		職種	
メールアドレス			

氏名			
所属		職種	
メールアドレス			

氏名			
所属		職種	
メールアドレス			

氏名			
所属		職種	
メールアドレス			

ありがとうございました。